

(学級活動)

「望ましい集団活動を通して、豊かな人間関係を築く子どもの育成」
～主体的にいきいきと活動する学級活動の育成～

大阪市立関目小学校 吉田慶子

1. 研究主題設定の理由

グローバル化の進展や人工知能の飛躍的な進化など、社会情勢が急速に変化し、今後もさらなる変化が予測される。今回の学習指導要領の改訂においても、そのような状況下において、一人一人の児童が、自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となることができるようにすることが求められている。近年、子どもたちを取り巻く環境は、変化が激しく、コミュニケーション能力の未発達からくる対人トラブルやいじめなど深刻な状況があるといわれている。

さて、本校の子どもたちの日常生活の様子に目を向けると、人間関係づくりに戸惑ったり、自分のよさを自覚できず自己肯定感が低かったり、自ら問題を解決してよりよく生きようとする意欲が低かったりするという実態が見られる。こうした現状を踏まえると、児童の自主的・実践的な能力や態度を育て、学力向上を基盤に必要な望ましい人間関係を築くという特別活動の実践研究が本校には必要ではないかと考えた。特に、学級活動を全職員で研究実践していくことで、望ましい集団活動の中で一人一人のがんばりが認められるようになり、さらに、人間関係のよりよい改善が図られ、自己肯定感が育まれ、自己のよさを生かそうとする態度が育っていくことが期待できる。

そこで、本校では、話合いの充実を図り、自己の生き方についての考えを深め、自己を生かす能力を養う学習指導法の在り方を研究し、主題の具現化を図ることとした。また、子どもたち一人一人に、自分たちの身近な問題に目を向けさせると共に、「望ましい集団活動」を通して豊かな人間関係を築こうとする自主的、実践的な態度を育成したいと考えた。

本年度は、規律ある温かい学級集団づくりが、子どもたちの言語活動を活発にし、豊かな学びにつながると考え、研究主題を「望ましい集団活動を通して、豊かな人間関係を築く子どもの育成～主体的にいきいきと活動する学級活動の実践～」として、学級活動を基盤とした「集団づくり」を研究推進してきた。

三年次の取り組みとして、新学習指導要領を意識した実践に取り組みながら、よりよい豊かな集団活動の中で、個が生きる学びへと結び付けていくために、あらゆる場面で集団としての高まりを実感させ、学校を元気にしたいと考えた。学校が元気になることで、全ての学習において活発で豊かな学びになると確信し研究に取り組んできた。本校では、学校教育目標「一人一人を生かす教育を推進する。」を設定し、知（自ら学ぶ子）、徳（助け合う子）、体（健康で明るくねばり強い子）をめざす子ども像として、日々の教育活動を展開している。

2. 研究の趣旨

本年度の研究主題「望ましい集団活動を通して、豊かな人間関係を築く子どもの育成～主体的にいきいきと活動する学級活動の実践～」に迫るため、「学級活動を通して、望ましい集団を育てる」という目標を掲げ、「話し合い活動の工夫・充実」や「学級経営との関連を意識した学級活動の実践」に取り組んだ。

3. 研究の概要

研究主題にせまるため、研究の視点を以下のように設定した。

(研究の視点)

- ◎児童が「豊かに考え」「よりよく活動していく」ための支援・援助の在り方を実践的に研究し、その成果を深め広めていく。
- ◎学級経営との関連を意識して、学級活動の実践を深める。

(具体的な内容)

① 学級活動の内容（１）の取り組み

学級の諸問題を話し合う「学級会」の進め方の研究を行ってきた。話し合い活動で折り合いをつけて合意形成を図るためには、話し合う内容が自分たちの問題であるという意識付けが大切となってくる。

○「みんなで納得」する話し合い

- ・多様な意見を聞き合い、みんなで納得する意見を貫く。
- ・多様な意見を重ね、さらなる思いや考えを引き出し、みんなで納得する。
- ・多様な思いや考えを聞き合い、時には自分の意見を譲りながら、みんなで納得する。

○計画委員会

学級活動の話し合い活動が自主的に行われるようにするには、話し合いの流れの予想、話し合いの進め方などの見通しを立てることが必要である。計画委員会は、それらの話し合いに必要な一連の活動計画を立て、運営していくための組織である。話し合い活動を児童の力で円滑に進めるためには、この活動計画を学級全員が共通理解できるようにすることが大切であると考えている。

○話し合いのステップと話し合いの進み具合を示すカードの提示

話し合い活動では、折り合いをつけて合意形成を図ることをねらいとしている。「出し合う」→「比べ合う」→「まとめる（決める）」という流れを踏まえて展開し、それぞれの場面を意識しながら発言できるようにすることで、意見の出し合いから収束・決定までをスムーズにすすめることができるようにする。そうすることで、いろいろな意見を認め合い、折り合いをつけるなどして、みんなの考えをまとめ、合意形成を図るようにしていく。

また、話し合いをスムーズに進めるためには、「今、どの場面なのか」を子どもたち全員が把握しておく必要がある。そこで、話し合いのステップを示すために、「出し合う」「比べ合う」「まとめる（決める）」のカードを作成し、全学級で使用する。

【話し合いのステップ】

「出し合う」

児童一人一人が話し合うことに対する考えを発表する場面。賛成意見や反対意見を述べるのではなく、様々な考えを発表する。

「比べ合う」

賛成意見や反対意見を述べ合い、互いの違いや共通点をはっきりさせる場面。また、よりよい考えを見出すために、「似た意見を合わせる」など創意工夫しながら話し合いをする。

「まとめる（決める）」

話し合った内容をまとめる場面。

○話し合いの活用

低・中・高の発達段階に合わせて作成した話し合いを活用し、低学年のうちは話し合いの手がかりにしながら自分の思いを伝え、発達段階に応じて自分の言葉で語れるようになることをめざす。

○板書の工夫

議題や提案理由、話し合いのめあてなど、全学年共通した掲示物を使うことで、学校全体で話し合い活動に取り組むことができる。また、話し合うこと①②の板書については、様々なパターンの板書から、学級の実態に応じた可視化・操作化を行うことで、児童の思考力・判断力が深まるような板書方法を研究していく。

○学級活動ノート

学級会の前に、自分の思いや考えをもって話し合いに臨むことができるようにする。継続的に使用し、振り返りについても書き込めるようなノート作りを工夫していく。

② 学級活動の内容（２）（３）の取り組み

児童自らが努力目標を意思決定し、その実現に取り組めるような生徒指導の機能を生かす展開を工夫することを通して、自己指導能力を育てる指導の在り方について研究を行う。

○自分に合った具体的な意思決定ができるような授業展開の工夫

- ・ 事前に、学級活動（２）では、題材を示したりアンケートを実施したりして、児童自身が問題意識をもち、課題として捉えられるようにする。また、学級活動（３）では、今の自分と将来の自分をつないで考えられるような支援をする。
- ・ 集団での話し合いによる原因追及の方法を探る。
- ・ 話し合いによる、よりよい解決方法を充実させる。また、なりたい自分に近づくための方法や解決方法について、自分の考えを広げたり深めたりする。
- ・ 自分に合った具体的なめあてや実践方法を意思決定する。

○４つの段階を踏まえた児童の思考過程を大切にする

児童一人一人が自分の課題を、自分ごととして捉え、自分に合った解決方法を見付け、目標設定できるように、教師は情報提供をしたり、みんなで解決に向けて話し合う場を設けたりする。

<p>【学級活動（２）】</p> <p>「つかむ」→自分の課題として受け止める</p> <p>「さぐる」→原因を追究し、解決への意識を高める</p> <p>「見付ける」→解決方法を、話し合いを通して考える</p> <p>「決める」→自己の努力目標や実践方法を決める</p>
--

<p>【学級活動（３）】</p> <p>「つかむ」→題材を自分ごととして捉え、課題をつかむ</p> <p>「さぐる」→これまでの自分を振り返り、自分のよさや可能性に気づく</p> <p>「見付ける」→なりたい自分に近づくための方策や解決方法を、話し合いを通して考える</p> <p>「決める」→自己の努力目標や実践方法を決める</p>

③ 各学年段階における支援・援助の在り方の工夫

各学年段階における指導のポイント

低学年	仲よく助け合い学級生活を楽しくするとともに、日常生活や学習にすすんで取り組もうとする態度の育成。
中学年	協力し合って楽しい学級生活をつくとともに、日常の生活や学習に意欲的に取り組もうとする態度の育成。
高学年	信頼し支え合って楽しく豊かな学級や学校の生活をつくとともに、日常の生活や学習に意欲的に取り組もうとする態度の育成。

（低学年）

- ・学級活動入門期に当たるこの時期に、まずは、「話す」「聞く」を徹底して指導する。そのために、１分間スピーチを取り入れるなどして、普段から人前で話す経験を増やす。
- ・話し合いの形式を、指導者が主導して行うことで、話し合いの流れや計画委員会の仕事などを理解する。また、学級会の流れを、全員に配布して、学級会の内容を把握して進める。
- ・学級活動ノートを大切にし、自分の考えが書けるようになったら、理由も添えて書けるように指導する。指導者がコメントを書くことで、児童が自信をもって発表できるようにする。

（中学年）

- ・計画委員会は、共通理解を図るために、はじめは全体計画委員会を行う。そして、全員が経験できるように、輪番制にする。
- ・計画委員会では、話し合いの計画を、指導者と共に立て、話し合いの進め方や板書の仕方などを考える。学級活動ノートを見ながら、短冊に出てきた意見を書くことで、話し合いをスムーズに進めることができるようにする。
- ・話し合いの焦点化を図るために、学級目標や提案理由を大切にしながら、話し合いを進められるようにする。

（高学年）

- ・学級活動の実践化、生活化に向け、議題選定の方法を工夫する。
 - 今までの学級や学校生活を振り返る時間と場を確保する。
 - 日常生活の中で、自ら問題に気づき、議題が提案できるように働きかける。

- 学級目標に沿った一貫性のある議題が望ましいと考える。
- 全員の輪番制による計画委員が議題を収集し、選定する時間と場を設ける。
(議題提案カード、学級活動コーナー、1週間の活動の流れなど)
- 出された議題と提案理由、議題の条件を確認した上で、全員で選定する。
- 学級全員が議題提案までの過程や理由を共通理解した上で決定し、意欲的な態度で活動に臨めるようにする。そのために、児童から挙げられる議題を活用する。
- ・学級だけでなく、学校全体へと活動が広がるような指導を工夫する。

4. 研究の成果と今後の課題

(1) 研究の成果

- 計画委員会を自主的に行えるように、次の議題や話合いのめあてなどを掲示する学級活動コーナーを設けた。また、話合いに向けての見通しが立つように予定表を作成し、掲示するなど環境づくりを行った。
- 学級の実態などのアンケートを取り、その結果を可視化することで話合いの見通しが立つようにした。
- 係活動では、係活動コーナーを設け、活動状況を共有することで児童が協力して係活動に取り組むことができた。また、定期的に係会議を行い、振り返りを行うことで目的をもって活動することができた。
- 実践後には、必ず振り返り活動を行い、全体の場で振り返ったことを共有することで次の活動に生かすことができた。
- 学級活動(1)では、『出し合う』『比べ合う』『決める(まとめる)』の三段階討議法を用い、折り合いをつけて合意形成を図ることをねらいとすることができた。また、話合いのめあてを一人一人が意識してよりよい活動にすることができた。
- 学級活動(2)(3)では、『つかむ』『さぐる』『見付ける』『決める』という、4つの段階の指導過程を大切にして指導することで、児童一人一人が自分の問題として捉えることができた。また、自己の成長や将来に希望をもち、実現しようとする態度を養うことができた。児童が自分で立てためあてを掲示することで、常に振り返りを行えるようにした。その結果、自己目標に取り組む意欲を高めることができた。
- 個々の課題や目標に気づき、実践していくために学級活動(2)や(3)を意図的、計画的に行った。そこから意思決定したことを日常の生活に取り組めるよう支援した。
- 昨年度に引き続き学級活動(1)(2)の研究を深め、新学習指導要領の指導内容である学級活動(3)の研究も進めることができ、学級活動の研究の幅を広げることができた。

(2) 今後の課題

- 集団における問題を「自分事」として捉えられるように支援・援助をすすめていく。
- 高学年のリーダー性の育成
- 児童会活動・縦割り活動の活性化
- 縦や横のつながりを大切にしながら年間指導計画の見直しや充実を図り、学校全体として系統立てた指導を今後も取り組んでいく。